

留学体験作文

大学院生として交換留学生になるのは珍しいことです。私は大学時代から日本に交換留学する計画を立てていましたが、コロナの影響で叶わず、ずっと心残りでした。今回ようやく4年前の夢を実現することができ、東京での生活はとても充実していて楽しいものとなっています。

交換留学生には最低8科目を履修することが求められています。私は必修の交換留学生指導という授業に加えて、日本語の授業を5つ、奈良女子大学とノルウェーの大学が共同で行うジェンダー問題についてのCOILというオンライン授業を1つ、そして興味と専攻に関連があるため、舞踊に関する授業を聴講しました。日本語の授業の中には日本人学生と一緒に受けるものもあり、多文化共生や日本語教育について学ぶことができ、日本人学生と交流する良い機会となりました。また、COILでは、さまざまな国の男女平等の現状を知り、意見を交換することで性別平等をさらに進める方法を考えることができました。

学校の授業以外で、交換留学の一番の目的は生活を体験することです。私は芸術文化産業に関わっているため、日本で様々な文化芸術活動に参加することを留学前から決めていました。東京の学校を選んだのもその理由の一つで、ここは日本一の大都市であり、この分野の資源が最も豊富だからです。これまでに歌舞伎を2回、能を1回、バレエを2回、ミュージカルを2回、音楽会を1回、展覧会を2つ見て、東京アートウィークには2日間参加しました。また、様々な合計7回のライブに行き、相撲の試合を観戦し、国立劇場の舞台裏も見学しました。これらを通じて日本の文化や芸術の環境を十分に体験できました。日本のこの分野での発展はアジアでもトップクラスであり、国民全体が長年培ってきた芸術文化への理解と関心は本当に羨ましいと思います。台湾にも素晴らしいパフォーマンス団体が多くありますが、観客の育成や市場の拡大において、さらに努力が必要だと感じました。文化活動以外では、東京ドームで世界野球プレミア12を観戦し、台湾とアメリカの試合を目の当たりにしました。決勝戦のチケットは買えませんでしたでしたが、ドームの外で他の台湾人と一緒に叫んで応援しました。このような活動は3月末に帰国するまで続く予定で、これからも楽しみにしています。



大学時代の交換留学がコロナで中止になったことは残念でしたが、もしその時行けていたら、今こうしてお茶の水女子大学で学ぶことはなかったかもしれません。全てがうまくいくようになっているのです！指導教員の鈴木先生には、私の振り返りシートをいつも丁寧に読んでいただき感謝しています。また、萩原先生や国際課方々には、JASSO奨学金を獲得するサポートをしていただき、感謝の気持ちでいっぱいです。音羽館の管理室も、毎回「いってらっしゃい」と声をかけてくださり、音羽館での生活がまるで自分の家のように感じられました。さらに、チューターの丸山さんには、色んな手続きの際に大変助けていただきました。そして、お茶大で出会ったすべての友達のおかげで、この期間はとても素敵な思い出となりました。日本で過ごしたこの時間は、私にとって最も楽しく、幸せな日々でした。